

## (二) 郵便局

焼山街道の交通が次々に衰微した明治二十六年四月焼山郵便局を移転して熊野郵便局が開設されたが、局舎は現在中学校西前の位置であつた。最初は通常郵便のみ取扱つていたが、明治四十三年迄に小包郵便、内外国為替、郵便貯金、和文電報等の事務を加え、一応の体係を整えるに至つた。其後大正年間には簡易保険（大五、一〇、一）電話開通（大九、三、二六）外国和文電報（上海、青島及倉口）郵便年金（大一一、一〇、一）月掛貯金（昭三、二、一）等の取扱に拡大、次いで、昭和六年四月一日以降熊野跡村を集配区劃に編入した。この間昭和四年一月には現在地にコンクリート建の局舎新築され、通送も人から人力車（大一二、七、一）サイドカー（昭六、四、一）へとスピードアップされた。現在は一日午前、午後の二回日本郵便通送株式会社の赤塗自動車（昭八、四、一五）が広島、熊野、呉間の巡回集配に当り、町内集配も一乃至二回に及んでいる。このような、郵政進歩の中に、通信マーク「〒」をきざまれた一号ポスト（鉄製）四、二号ポスト（木箱）一一、計一五が切手売捌所一五（何れも熊野跡村を含む）の標識と共に、昔かわらぬ赤い姿態をのぞかしているのは仲々なつかしいものである。

### 日本郵政のあゆみ

年 月 ころ かつりかわり

|        |                    |
|--------|--------------------|
| 明一五、一二 | 書状二銭、葉書一銭発売        |
| 二五、    | 小包郵便法を公布 一〇、一から実施  |
| 三二、五   | 書状三銭、葉書一銭五厘発売      |
| 三九、三   | 振替貯金制度創設           |
| 三九、一一  | 年賀郵便規則制定           |
| 大五、一〇  | 簡易生命保険事務開始         |
| 一五、二〇  | 郵便年金事務開始           |
| 昭三、    | 月掛貯金制度実施           |
| 一一、    | 年賀切手廃止、書状四銭、葉書二銭発売 |
| 一七、    | 書状五銭               |

上表は日本郵政について周辺の簡単なスケッチであるが、書状二銭、葉書一銭の時代から七十年後の今日書状十円、葉書五円えのあゆみを正視し、時代の起伏とその背後にひそむいろいろな現象を想起せずにはおれない。

その社会現象に包まれながら、われわれの郷土がたくましい進展の巨歩を運んできたことも無論である。郵便局は、実に社会現象の窓であ

